



新潟県

県立病院ニュース

～病院に関係する全ての人から信頼される病院を目指して～

第146号 平成30年7月 病院局発行

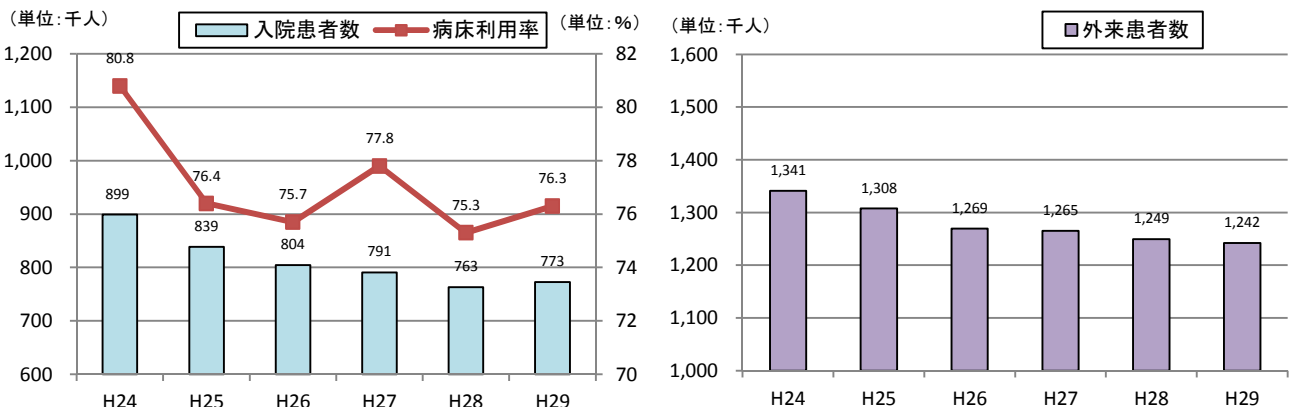
平成29年度決算 7.8億円の赤字

	H24決算	H28決算	H29決算	(対H24増減率) 対H24増減数
医業収益	百万 55,871	百万 56,702	百万 57,897	(3.6%) 2,026
医業費用	百万 62,873	百万 69,162	百万 69,981	(11.3%) 7,108
給与費	百万 34,007	百万 37,660	百万 37,433	(10.1%) 3,426
材料費	百万 16,164	百万 17,703	百万 18,359	(13.6%) 2,195
経費	百万 8,247	百万 8,714	百万 9,158	(11.0%) 911
医業損益	百万 ▲ 7,002	百万 ▲ 12,460	百万 ▲ 12,084	(▲72.6%) ▲ 5,082
一般会計繰入金	百万 10,534	百万 12,764	百万 11,114	(5.5%) 580
経常損益	百万 2,034	百万 738	百万 ▲ 613	(▲130.1%) ▲ 2,647
純損益	百万 434	百万 ▲ 1,020	百万 ▲ 784	(▲280.6%) ▲ 1,218
県の人口	人 2,374,450	人 2,304,264	人 2,266,121	(▲4.6%) ▲ 108,329
2045年推計人口				人 1,698,243

※新潟県病院事業決算のH24は六日町病院及び小出病院を除く。

※県の人口は平成22、27年の国勢調査人口及び県推計人口による。

※2045年推計人口は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」による。



平成29年度決算状況

- いわゆる本業の収入に当たる医業収益が6年ぶりに前年度比増（+12億円）となり、医業外収益である一般会計繰入金は減（▲16.5億円）となったものの、特別損失の減（▲17.4億円）もあったことから、純損益はやや改善（+2.4億円）しました。
しかし、2年連続の赤字決算であり、直ちに経営上の問題はないものの、いわゆる債務超過と言われる状況となりました。
- 一方、5年前（平成24年度）と比較すると、（13病院ベースで見ると）医業収益（+20.3億円）に比して、給与費、材料費、経費などの医業費用が大幅に増加（+71.1億円）しており、今後もこれらの状況が継続するとした場合には、持続可能な運営にも支障を来しかねないものと考えています。
- 加えて、本年2月に改定された新潟県財政運営計画では、病院事業等において、経営改善に不断に取り組み、より一層、効率的な運営を行って一般会計負担の縮減に取り組むこととの要請もあることから、経営改善に向けた取組は急務であると認識しています。
- このため、昨年に策定した「新潟県病院事業の取組方針」の着実な実施に向けて、本年度、外部委員会を設置し、取組状況の評価を受けるとともに、さらなる取組の推進につながる意見や提言を得て、一層の経営改善に取り組んでいきたいと考えています。

患者数の推移

- 入院患者数は、紹介患者の増加などにより、8病院で増加し、全体としては、9,844人の増加となりました。
- 外来患者数は、医師の減員・交代などにより、8病院で減少し、全体としては、7,266人の減少となりました。
- 延患者数は、平成28年度と比べると2,578人の増加となりましたが、5年前（平成24年度）と比べると▲225,436人（▲10.1%）と大幅に減少しています。

平成29年度の主な取組

■医療の質の向上

- ①十日町病院改築工事・加茂病院改築工事
- ②生体情報モニタリングシステムやジェットウォッシャー
超音波洗浄装置など高額医療機器の整備
- ③吉田病院・津川病院耐震化対応に向けた取組
- ④クラウド型電子カルテシステムの導入等に向けた取組

■患者サービスの向上

- ①療養環境の改善
- ②訪問診療や訪問看護による在宅療養の支援
- ③信頼される県立病院づくりのためのニーズ調査結果を踏まえた改善策の実行
- ④助産師外来や緩和ケア外来、禁煙外来、糖尿病教室などの開催

■経営改善の推進

- ①「新潟県病院事業の取組方針」に基づく経営健全化に向けた取組
- ②DPCの効果的運用
- ③医療機関どうしの連携による機能分化と患者確保に向けた地域連携の推進
- ④マネジメントシート（BSC）による経営管理、成果発表の実施
- ⑤診療報酬制度に沿った診療体制の充実や業務改善による適切な入院料等の算定

■医師・看護師等の確保や育成

- ①臨床研修医の受入れ
- ②民間紹介業者の活用・エルダー医の配置による医師確保
- ③寄付講座の開設
- ④医療クラークの配置（13病院198人配置）
- ⑤看護師採用における勤務地を限定した採用枠の設定
- ⑥認定薬剤師、認定看護師等の育成
- ⑦「病院局人材育成プログラム」に基づく系統的な人材育成
- ⑧看護師養成学校への訪問PRや就職説明会等への積極的な参加、インターンシップの開催

■その他

- ①院内保育所の運営
- ②中学・高校生の職場体験学習の実施
- ③十日町病院附属看護専門学校（仮称）開学の準備



加茂病院改築工事

第1回県立病院経営委員会を開催しました

県立病院経営委員会を新たに設置し、6月13日（水）に第1回委員会を開催しました。

この委員会は、県立病院の中期的経営方針である「新潟県病院事業の取組方針」の実施状況について、外部有識者から客観的に評価を受けるとともに、持続可能な経営の実現に向けて、更なる取組の推進につながる意見・提言をいただくことを目的としています。

第1回委員会では、以下の議題について、議論されました。

- ・ 県立病院の現状、決算概要、経営改善の取組状況
- ・ 自己点検・評価及び客観的評価の方法
- ・ 経営改善等についての意見交換



外部委員	所属
染矢 俊幸	新潟大学医学部長
望月 泉	八幡平市国民健康保険西根病院統括院長
堂前 洋一郎	(一社)新潟県医師会理事(新潟万代病院長)
奥村 麗子	(公社)新潟県看護協会会長(欠席)
谷田 一久	(株)ホスピタルマネジメント研究所代表取締役
高橋 信太	高橋公認会計士事務所長

※外部委員のほかに、県立病院の現状等を説明するため、県立病院院長等が参加

内部委員	所属
佐藤 信昭	がんセンター新潟病院長
塚田 芳久	新発田病院長
長谷川 正樹	中央病院長
吉嶺 文俊	十日町病院長
太田 求磨	柿崎病院長
藤本 智恵	吉田病院看護部長(欠席)
下條 文武	病院局参与

経営改善等に関する主な意見

- ① 経営上の課題は中規模クラスの病院の収支改善ではないか。病床利用率の低迷について、医師不足（診療科の減少）による患者流出なのか、人口減少なのか、要因を詳細に分析する必要がある。
- ② 地域医療構想における民間医療機関との役割分担を踏まえ、公立病院ではなければ担えない分野に機能を重点化していく中で、県立病院は中長期的な重点取組項目や目標を立てて、経営努力していく必要がある。
- ③ 新潟県の特異性から、小規模の地域医療病院が一般会計繰入金（税の負担）を受けながら一次救急やプライマリケアを提供しているのであれば、受益と負担の観点から住民の理解を得るために十分な説明が必要である。
- ④ 県立病院は他医療機関のモデルとなる医療や経営をすべきと考える。例えば、小規模な地域医療病院は地域医療、地域包括ケアシステムの先進的モデルとなるような取組が必要である。
- ⑤ 県立病院のネットワークを有効かつ最大限に活用する必要がある。医師を集約化した基幹病院から医師の少ない地域医療病院に医師を派遣することは地域住民の安心に繋がる。

経営改善に向けた平成30年度の取組の方向性

- 収益確保、費用削減の強化
- 病床機能・規模の適正化
- 県立病院の連携強化
- 人材育成の強化
- 効率的・効果的な設備投資

県立中央病院が自治体立優良病院表彰を受賞！



(前列一番左) 中央病院長谷川院長

6月21日に東京都内で「平成30年度自治体立優良病院表彰式」が行われ、県立中央病院が全国自治体病院開設者協議会と公益社団法人全国自治体病院協議会の両会長から表彰を受けました。

昭和61年度に設けられた自治体立優良表彰は、自治体立の病院で、地域医療の確保に重要な役割を果たしており、かつ、経営の健全性が確保されている病院について表彰されるものです。

新潟県立病院では、昭和63年度の県立十日町病院、平成19年度の県立松代病院に続き3病院目の受賞となりました。

【長谷川院長のコメント】

このたびの受賞は、長年にわたる職員の努力と地域の皆様、そして関係機関のご理解・ご協力のおかげと深く感謝しております。これを励みにして健全経営のもと、地域の皆様に信頼され、地域とともに歩む病院づくりに向けて、職員一同ますます努力してまいりたいと存じます。

名誉院長称号授与式

～リウマチセンター前院長 中園先生～



(左) 中園名誉院長、(右) 岡病院局長

6月7日に名誉院長称号授与式が、病院局長室で行われ、リウマチセンター前院長中園先生に名誉院長の称号が授与されました。

中園先生は、昭和54年3月新潟大学医学部を卒業後、新潟大学医学部附属病院等を経て、昭和60年12月から県立瀬波病院に勤務され、平成18年11月から県立リウマチセンター副院長に就任され、平成25年4月から同センターの院長として平成30年3月ご退職まで5年間お勤めになりました。

平成18年11月に、県立リウマチセンターが新発田市に新築移転した際には、副院長として、移転に伴う諸課題の解決、移転後の安定した病院経営に取り組まれ、また、院長就任後は、フットケア体制の確立、毎週土曜日ハビリの実施のほか、併設する新発田病院と人材面、施設・設備面での連携を図り、広い分野での集学的医療体制を充実させるとともに、効率的な病院運営にご尽力されました。

長年、県立病院の安全・安心な医療の提供にご貢献いただき感謝いたしますとともに、これからも県立病院の運営について、ご指導下さいますようよろしくお願い申し上げます。

「信頼される病院づくり」に関する取組をお知らせください！

皆様からの「こんなことやっているよ」という情報提供や投稿をお待ちしています！

病院局経営企画課企画係

E-mail: ngt400030@pref.niigata.lg.jp

